

2022年度

NO.3 (通算 NO25)

2022・2・20

事務局だより

一般社団法人 示現会

事務所 ☎ 03-3824-9128

- 示現会展に向けて
- 会計より

裏面 ○<特集> 巡回展報告(石川県支部)
示現会展準備 委員の仕事

2月15日、理事会では、75周年記念の実施について話し合いが行われました。まだ、コロナがおさまらない状況ではありますが、示現会としては、国立新美術館での記念展を実施いたします。記念事業年の画集の発行がありますが、皆様の協力をよろしくお願いいたします。

75周年示現会展に向けて

2月15日 監査・理事会 報告

2月15日、示現会館にて2021年度の監査が行われ、引き続き、理事会が開催されました。

監査は、成田理事長を始め大滝、三杉監事及び、井上事務責任者以下、事務局の佐藤、武、中西(錦織 庶務主任 欠席により副主任の 中西氏が代理出席)そして、オブザーバーとして岡部会計士が同席しました。

中西副主任から21年度の行事の説明があり、引き続き石橋会計主任の会計関係の説明の後、質疑応答、書類などの確認を行い終了しました。

詳しくは、総会資料をご覧ください。

***総会資料は会員の方々に送付されています。**

3時から始まった理事会には、鈴木、中川の常務理事、そして大淵、土田、渡邊、徳田の各理事も出席し、3月8日の総会に関する資料の確認、その後、75周年記念示現会展の実施について、さらにその後の示現会行事について話し合いが行われました。

年が明けてコロナの新規感染者の数は爆発的に増加しています。一週間先も読めません。展覧会開催は四月の六日、まだ二カ月前のことですが、はたして展覧会は開催できるのか、開催できたとしてもどのような内容、規模の展覧会ができるのでしょうか。今の時点ではいえることは、美術館が閉館にならない限り開催はいたしません。

周辺のコロナの動向を横目で見つつ、会場の安全確保等々のクエスチョンを抱えつつ、仕事を進めています。

会場入り口に掲示する挨拶文もこの不確実な中、掲示されることを望みつつ起草しています。そして、挨拶の末尾に「人類は過去にその英知でペスト、天然痘、コレラ等を克服してきました。コロナもそれらに匹敵する全人類の災禍です。しかし人類は必ずやこの災難に負けず、人としてのすべての営みを回復し、社会生活を復活させていくでしょう。もちろんその人としての生活は、芸術の灯を消すことなく営まれるでしょう。この私たちのささやかな展覧会も、人類が人類であることの証しとしての芸術活動の片隅で、お客様に観ていただければ幸いです。」と結びました。



事務責任者 井上 武

支部長交代のお知らせ

理事会で支部長の交代が承認されました。
<新支部長> 和歌山支部長 土井敏弘様
岐阜支部長 内木健二様

和歌山支部長として長年支部の運営に携わってきた、中村恵吾様、また同じく岐阜支部長の山田裕彦様、ありがとうございます

石川県支部より支部長交代の届けがありますが 今後の理事会にて付議し承認されましたらお知らせいたします

会費納入についてのお願い

今年度も引き続き会計を担当することになりました。よろしくお願いいたします。

日頃より、示現会の行事にご理解、ご協力いただきありがとうございます。今年度の会費の納入につきましてお知らせ致します。

2月下旬に会費納入のお願い文章並びに振込用紙を配布いたしました。納入期限は4月末日といたします。

今年は75周年記念の年に当たります。記念の画集を製作いたします。この費用は皆様の出資によって賄います。コロナ禍で大変な時ではありますが皆様方のご協力を切にお願いいたします。

会費納入と一緒に費用を集めさせていただきますので金額等を記した文章をお付けします。よろしくお願いいたします。

会計主任 石橋俊博



75周年を記念して

記念画集発行について

示現会では、5年ごとの区切りで画集を発行してきました。

今回も記念行事として画集の発行をいたします。つきましては、記念行事費用として、会友以上の皆様にご協力をいただきます。

よろしくお願いいたします。
なお、費用につきましては、年会費と同時に振り込んでいただきますので、年会費集金の用紙をご覧ください。よろしくお願いいたします。

役員・委員・支部長	10000円
正会員	7000円
準会員	5000円
会友	3000円

*** 一般の入選者の作品も掲載いたします**
*** 画集は1冊2000円で販売いたします**
一般入選者の方は会場で直接お求めください。記念行事費用の分担となります。

特集1

巡回展報告

兵庫を皮切りに13か所で開催された第74回示現会展の巡回展は今年1月、金沢展で終了しました。コロナ禍の中での開催ということで各支部非常に厳しい状況でしたが、支部員はじめ大勢の方々のご支援で無事終了することができました。

第74回示現会展巡回金沢展を終えて

新型コロナ・オミクロン株大流行禍中の開催でした。安全第一に実施する事は勿論、決してクラスターを発生させてはならない。その重圧の中、無事閉幕を迎えられた事、支部全員の願いで有りました。

そんな中、「大変わかりやすい」「雄大な絵が多い」「心洗われた」など会場でお聞きしたお客様の共感や感動の声です。美術愛好家の皆様に具象の美を追求した作品を再認識して戴き無事に終了出来ました。この様な状況でも来場者が予想以上に多かったことは、今後の励みになります。“成功裡に閉幕させたい”と願う会員の一致協力の賜物と思います。

石川県支部長 中村 末二

金沢展



洋面の第74回示現会展巡回金沢展(示現会 同会石川県支部 北国新聞社主催)は19日、金沢市の県立美術館で開催した。開催は2年ぶりとなり、雪景色や郷愁を誘う山村風景など、心に染み入る80点が来場者に具象絵画の魅力を伝えた。

心に染みる具象の美

示現会展巡回金沢展開幕

昨年3月に東京の国立新美術館で開かれた本展の巡回展。本部基本作品は59点が展示され、川に囲まれた集落を多様な緑色で表現した成田順介理事長の「川のみえる風景」、わたしが残る越前海岸の道を描いた中村末二(石川県支部長)の「海辺の村」が目を引いた。地元作品は21点が披露され、北国新聞社の設ける「北示賞」に選ばれた熊野智子さん(小松)に写

真右の「ふるく・袋・フクロ」をはじめ、近江町や那谷寺、白山など地元風景画などが並んだ。開場式後、中村支部長が作品解説した。表彰式も行われ、北示賞の熊野さん、奨励賞の清坐繁さん(金沢)に写

真中央「吉志津江さん(同) 同左江左たえん、入場料は500円。23日まで。

石川県立美術館



委員の仕事

委員が担当する係の仕事は、いろいろとあります。示現会展の開催に至るまでの準備がいろいろとあり、特に3月に入ると、その仕事は多岐にわたります。各自それぞれ個人の仕事などもありまた自分の作品の制作など時間的に厳しいのです

が、少しでも、良い展覧会になるように頑張っています。今回は発送の様子ですが、さらに会館での準備、そしていくつもある美術館での仕事などお知らせする予定です。

がんばれー委員のみなさん

75周年記念展 準備進む!

12月5日に引き続き、1月23日、2回目の発送を行いました。オミクロン株が猛威を振るい、東京にはまん延防止の通達が出された中でしたが、庶務係を中心に発送の準備を行いました。



10時、井上事務責任者の言葉の後、錦織庶務主任の説明があり、1階は準会員以下の方々に向けての作業。2階では、役員、支部長、委員、会員、と其々の役職により、入れる用紙が違いますので、それに合わせての作業、また、広告宣伝係は目録の広告関係、各地の施設などへの案内など、其々の作業は午後3時まで続きました。

示現会のいろいろな案内はホームページに掲載されます。ぜひご覧ください。

皆さんからの一言を募集中です。絵のこと、地域の様子など、お知らせください。
メール先 佐藤祐治宛 1941sato@gmail.com
なお、示現会のホームページの「メールでのお問い合わせ」でも投稿できます

